



Sea級 グルメスタジアム

 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION
海と日本 PROJECT

2020

エリアイベント 実施報告書

能登のイカ漁
～里山里海をイカす未来～

第1回：2020年8月25日(火) 能登町立宇出津小学校
第2回：2020年9月28日(月) 同上

MRO

1) エリアイベント開催概要

○事業名

海と日本プロジェクト Sea級グルメスタジアム in 石川

○実施日程・場所

第1回目：2020年 8月25日（火） いずれも能登町立宇出津小学校

第2回目：2020年 9月28日（月）

○主催

海洋キッズスクール実行委員会

○協力

石川県立能登高等学校（参加者：11人）

能登町立宇出津小学校（参加者：38人）

石川県水産総合センター

○内容

次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人がつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環として開催。高校生による小学生を対象とした授業を通して、地元の海の現状と課題を伝えます。

2回目の開催となる石川県の授業では、過去3年連続で漁獲量が下がっているイカの生態と海の環境について学ぶほか、今年は農業を通して自分たちができることとは何かを考えました。

授業は2回に分けて行いました。

1回目(8月)は石川県の海の現状と課題を知ってもらうこと。

2回目(9月)は児童が地球温暖化防止に取り組んだことの学びを活かす期間とし自ら行動してもらい、習慣づけることの大切さを伝えました。

また、班ごとに商品名とパッケージデザインを話し合う時間を作り、授業以外の場でも参加者の意識づけになることを目的としました。

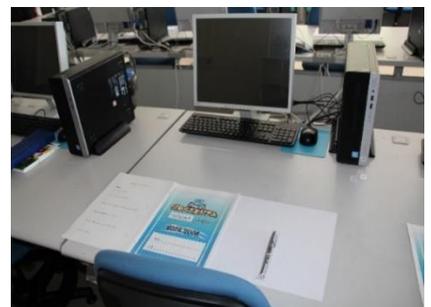
2) カリキュラム内容

テ ー マ	能登のイカ漁～里山里海をイカす未来～
開催日時	第1回：2020年8月25日（火） 第2回：2020年9月28日（月）
開催場所	能登町立宇出津小学校
参加者	能登高校生徒（代表者4人） 宇出津小学校児童（6年生38人）
講座次第	<p>【1回目…8月25日(火)実施】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「海と日本プロジェクトSea級グルメスタジアムin石川」 <ol style="list-style-type: none"> 開会あいさつ(事務局) 全体説明 <ul style="list-style-type: none"> ・日本財団「海と日本PROJECTについて」 ・企画実施概要 座学～能登町の漁業と現状の課題～ <ul style="list-style-type: none"> ・高校生プレゼン（クイズや紙芝居を用いた講義） ・イカ釣り調査船「白山丸」船内のVTR取材 体験～生イカ、どんぐり苗木の観察～ <ul style="list-style-type: none"> ・高校オリジナル「イカの絵描き歌」 ・どんぐりの苗木観察 商品開発 <ul style="list-style-type: none"> ・試食、意見交換 【2回目（振り返り授業）…9月28日（月）実施】 <ol style="list-style-type: none"> 第1回授業の振り返りとグループごとにネーミング・パッケージデザインを発表、決定
講座内容	<p>全国屈指のスルメイカ漁獲量を誇る石川県能登町。しかし今年は漁場をこれまでの近海に加え、北太平洋にまで拡大させた。海の環境を守るために自分たちができる行動を学び、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化による海水温上昇でイカの漁獲量が年々減少 ・能登町を代表する漁業「イカ釣り漁」の歴史 ・イカ釣り漁の調査船「白山丸」の役割について ・日本初の世界農業遺産「能登の里山里海」の魅力 ・高校生による生イカの生態解説、どんぐりの苗木観察 ・座学と体験学習で得た学びを生かすオリジナル商品開発 ・WEB販売や海マルシェ、流通などで販売予定 ・「守ろう海の郷土食」をテーマにSNSでイカ料理の投稿

3) スケジュール(第1回目)

時間	項目	備考
12:00	スタッフ集合	検温・消毒・受付準備
13:00	受付(高校生スタッフ)	プロジェクター・DVD準備 (画用紙・マジック配布)
13:30	開会	挨拶：次島(MRO事業局長) 奥教諭(能登高校)
13:40	座学・体験 「イカの姿を描いてみよう！」	絵描き歌・イカの生態観察
14:00	座学「能登町の漁業の現状と課題」	調査船「白山丸」の疑似乗船 (VTR)
14:20	座学・体験「豊かな森づくりのために できること」	植林用どんぐりの苗木観察 (希望者にプレゼント)
14:50	校内移動	
15:00	試作品の紹介・試食	試食・試作品開発への工程 を紹介
15:20	商品名&パッケージデザインのグ ループワーク	グループに分かれて、アイ デア出し
15:45	閉会	挨拶：眞知校長(宇出津小)
16:00	終了	

コロナウィルス感染症対策として、
受付時、手指消毒と参加者の検温を行いました



4) 第1回イベント内容

イベント1	13:40~14:00 高校生による座学 「正しく描けるかな？イカを観察してみよう」
-------	--



まずは児童に頭の中のイメージでイカの絵を描いてもらいました。普段見ているはずなのに、いざ描いてみると「あれ？どうだったけ？」「こうやった？合ってる？」子ども達から様々な声。答え合わせはこの日のために高校生が考えたオリジナルのイカの絵かき歌、そして生イカの生態解説です。

児童からは、赤ちゃんイカと大人イカの違いがたくさんあることや、足の本数が異なることに驚きの声があがり、イカへの興味と調べる楽しさを感じてもらいました。また、高校生は小学生が理解しやすいよう、言葉をかみ砕いて説明することを気を付けていました。

イベント2

14:00~14:20

高校生による座学

「能登町の漁業の現状と課題」



能登町にとって重要度が高い産業、それが漁業です。座学では能登半島の地形を活かし様々な漁を紹介しました。その一つがイカ釣り漁です。漁の歴史や、方法などを高校生がクイズを交えて解説しました。また、海洋調査船「白山丸」の役割をVTRで紹介。高校生には生でナレーションをしてもらい、その臨場感から児童には疑似乗船を体感してもらいました。

自分たちが住む海について知ってもらうことを目的に授業を行いました。

「小木港の潮の流れが速いことを知った」や「クイズをしながら楽しかった、地球温暖化を止めるようにできることを考えようと思った」という声が児童たちからあがりました。

イベント3

14:20~14:50

高校生による座学・体験

「豊かな自然環境を守るために」



イカの資源量が減る最大の原因は海水温の上昇だと学びました。高校生がスライドによる解説をし、児童は地球温暖化防止のために自分たちができることは何かを考えます。ここでは、能登高校の取り組み「里山の森を守る活動」を取り上げました。豊かな海は豊かな森づくりから。児童らは木を増やすことは地球温暖化を守ること、そして小さな苗木が大きく成長するのに40年もかかることに驚いていました。今回は希望者に苗木をプレゼントし、許可をもらって学校や自宅などに植えてもらいました。すぐに結果へとつながらなくても、今日の学びが自分自身や家族との会話で今できることを始めよう、という気づきになってほしいです。

イベント4

15:00~15:45

商品開発(試作品の試食・デザイン案のグループワーク)



試作品「イモイカせんべい」をみんなで試食、商品化に向けてアイデアを出しあいました。「いかいもかりかり」「イーかんじせんべい」など小学生らしい「イカ」した名前が提案されました。またせんべいの固さ、味が薄いなどの意見もあり、高校生たちは更なる商品改良の必要性を感じていました。普段は連携がない高校生と小学生がタッグを組むことで、この海洋教室が教育の観点からも学び合いにつながると感じました。

閉会

15：50～16：00
講評、参加者記念撮影



参加者の声(※一部抜粋)

- 小学生：森を守ることが海を守ることにつながることを知りました
- 小学生：商品の名前を考えられてうれしかった。ポスターを作ったりしてPRすればいいと思いました
- 高校生：この授業で伝えたかった、海の現状や水産資源を守るための取り組みについて小学生に伝わったと感じた
- 高校生：海水温の上昇や地球温暖化の進行を止めるためにも自分たちができることは何か、みんなに意識をもって生活してほしいと思う
- 教諭：能登町で取組む海洋教室の中でも未来につながる活動ができた
- 教諭：高校生・小学生のタッグで考えたことを商品として具現化できるといのはキャリア教育にもつながりすばらしい

能登高校オリジナルイカの絵描き歌

能登のイカ漁
～里山里海をイカす未来～



正しく描けるかな？
みんなでイカの絵を描いてみよう

制限時間は60秒だよ



赤ちゃんイカのお絵かき歌♪

♪作詞作曲：能登高校

♪お皿が一枚ありました



♪お皿の上にはマヨネーズ



♪両側にお耳がはえてきて



♪マヨネーズの真ん中には
おや！？にんじん
まわりにミニトマト



♪お皿の横から
黒豆2つ落ちてきた
お皿の下にはえんとつーつ



♪あしをつけたら
イカの赤ちゃんできあがり





あしの数9本

次は大人のイカのお絵かき歌だよ♪

♪作詞作曲：能登高校

♪三角飛行機飛んできて



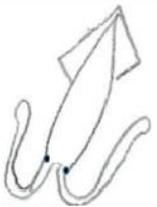
♪そこにロケット
突っ込んだ！



♪おやおや？
ロケットの下に黒豆2つ



♪ロケットの下から
火が出たよ



♪まだまだ続くよ、
ロケットの下から
火が8本




5) スケジュール(第2回目)

時間	項目	備考
12:00	スタッフ集合	検温・消毒・受付準備
13:00	受付	プロジェクター・DVD準備
13:30	開会	
13:35	座学「振り返り授業」	スライド説明と児童の意見・感想
13:50	商品名&パッケージデザイン案発表	班ごとに発表
14:20	候補作品から商品名とデザイン決定	
14:50	閉会	
15:00	終了	

6) 第2回イベント内容

イベント 1	13：35～13：45 前回の振り返り授業
--------	--------------------------



能登町のイカ漁の現状や歴史など、前回授業の振り返りを行いました。
また、前回授業からの1か月間で地球温暖化を防ぐために何ができるか、実践していることを発表しました。「電気をこまめに消しています」「もらった木を庭に植えました、枯らさないように毎日観察しています」「初めてイカをさばいて大変だった」など。この授業をきっかけにこうした活動へとつながったことに高校生たちも想いが伝わったと手ごたえを感じていました。

イベント 2

13:50~14:50

「イモイカせんべい」に名前をつけよう



グループごとに商品名とパッケージデザイン案を発表しました。「おいSeaせんべい」「イカせんイカが」など思いがたくさんつまったネーミングが全10案揃いました。また、絵描き歌の授業を活かしてパッケージデザインにはかわいいイカのイラストたちが。協議の結果、商品名は「能登の里山里海のめぐみ いいカもせんべい」に決定しました。

7) 商品開発

能登の里山里海のみぐみ いいかもせんべい



商品名：
能登の里山里海いいかもせんべい
内容量：
15枚入り
原材料：
もち米(能登町産)、冷凍イカ(小木港産)、じゃがいも(能登町産)、みりん、醤油(能登町産)砂糖、いしる(能登町産)

商品の特徴：
スルメイカにじゃがいもを練り込み焼き上げました。イカの香ばしさと優しい味わいが特徴です。

【商品への想い】

今回の授業で豊かな海の資源を守り育てるために、里山の整備が大切であることを学びました。

そこで、能登の里山里海のみぐみを盛り込むため、能登高校の農園で育てたじゃがいもを練り込んだせんべいを商品化しました。

商品名は手にてっともらいやすいこと、「イカ」と「いも」を使っていること、おすすめですよ、という意味を込めて「いいかもせんべい」としました。

パッケージのイカは絵描き歌での学びを活かしています。イカのスミを石川県の形で表現しているものポイントです。全国でこの商品を手にとってもらう人に石川県の商品であること、地元の海を感じてもらえるようデザインしました。

8) 海マルシェ

海マルシェ	2020年11月21日（土） 会場 道の駅「イカの駅つくモール」
-------	-------------------------------------

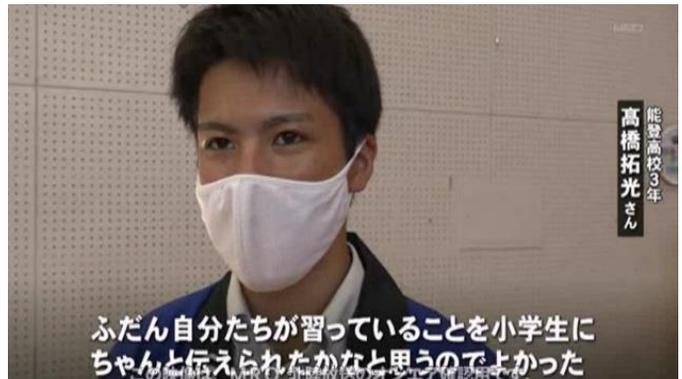


海マルシェ会場用 ポスター
児童のアイディアで会場内にポスターを掲示
イベントPRの一環としての取り組み

能登にある道の駅で「海マルシェ」を行いました。近くを通る人に積極的に声をかけ、地元客には能登の海の現状について、観光客には石川県の海の魅力をアピールし、商品を通じてその思い届けます。

9) 報道一覧

① 自社「MROニュース」2020年8月26日 OA



② 自社「レオスタ」2020年9月28日 OA



③ 自社「MROニュース」2020年11月22日 OA



④新聞記事

イカした名前 考えた



能登高生らが考えた小木港産スルメイカのせんべいの商品名を考えるため試食する児童—能登町宇出津小で

能登の海の現状や課題、水産業の特色について児童らが学ぶ「Sea級グルメスタジアムいし石川」が二十五日、能登町宇出津小学校で開かれ、六年生二十八人が参加した。講師役を務めた能登高校（同町）の生徒らから同町小木港で盛んなスルメイカについての授業を受け、実際に販売予定のイカを使ったオリジナル商品の開発も体験した。（加藤豊大）

宇出津小6年、スルメイカ漁学ぶ



日本財団（東京都）が全国で推進する「海と日本プロジェクト」の一環。能登高地域創造課水産選択の三年生四人が児童らを前に、スルメイカの体の仕組みや小木イカ漁の歴史を紹介した。近年小木港では、海水温上昇による日本海の資源量減少から、水揚げ量が減少していることにも言及。「原因の一つの地球温暖化を解決するには、温室効果ガスを吸収する森林の保全が重要」と呼び掛けた。

能登高生考案レシピに命名案

「きよつこのイチオシ」のために能登高生らがレシピを考案した、小木港産スルメイカを使ったせんべいの商品名やパッケージのアイデアを考えた。イカやジャガイモをすりつぶして焼き上げた製法にちなみ「いかいもかりかり」や「イカんじせんべい」などと、それぞれに命名案を出し合っていた。参加した本輪結愛さんは「地球温暖化についてもっと考えたいと思った。せんべいはイカの味がおいしく、全国の人に食べてほしい」と話した。同スタジアムは九月二十八日にも宇出津小であり、商品名などを決める。完成した商品は、本年度中に地元食品スーパーやインターネットなどで販売する予定。

イカを使ったせんべいを試食する児童—能登町宇出津小



院・健康管理センター110767(52)321111まで。

イカのせんべい 名称は？

宇出津小児童と能登高生意見交換

日本財団の海と日本プロジェクト「Sea級グルメスタジアムいし石川」は25日、能登町宇出津小で行われ、6年生38人が地元特産のスルメイカの生態を学びながら、イカを使ったオリジナル商品の名称やパッケージデザインを考えた。能登高地域創造課水産選択の3年生4人が講師を務め、児童は小木のイカ漁の歴史や資源量減少の理由に理解を深めた。生のイカを観察したほか、海の環境を守るため同高で実施している里山での植樹活動などについても説明を受けた。児童は能登高生が試作した船凍イカとジャガイモを使ったせんべいを試食し、商品化に向けて「イカせんべい」が、「イカんじせんべい」などと商品名のアイデアを出し合った。オリジナル商品は9月の授業で名称とデザインを決めた後、年度内にもインターネットや地元商店での販売を予定している。本輪結愛さんは「歯応えがあり、イカの味がしておいしい。多くの人に食べてほしい」と話した。

北陸中日新聞 2020年8月26日掲載

北国新聞 2020年8月26日掲載

10) 守ろう！海の郷土食



【スルメイカの梅大根ソース】
親子一緒に料理ができる火を使わない
スルメイカのアレンジレシピです。

レシピ：中田料理学園 中田悠紀彦氏

番組内で紹介しました

① 自社「トクモリ！」2020年10月9日OA



② 自社「トクモリ！」2020年11月10日OA

